

“ちいさな企業” 成長本部（滋賀県大津市）
議事概要

中小企業庁

- ・ 日時：平成25年11月22日（金）13：00～15：00
- ・ 場所：滋賀県大津市（大津市生涯学習センター）
- ・ 「“ちいさな企業” 成長本部」行動計画等に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・ 参加者からの主なご意見は以下のとおり。

<中小企業・小規模事業者>

- なかなか国・県の施策などの情報が届きにくい。取りに行くことをしない方にも問題はありますが、施策を活用する人が身近にいない。身近に活用した人がいたら、参考になるので、そうした環境があればいい。
- 日本はものづくりの国と言われているが、技術とは何かという疑問が沸いてくる。建築業界は日当が下がっている。真面目にしている人に報いるような施策をしてほしい。ドイツではマイスターをとると、日当が約束されている。日本の技術文化を大切にしていけるべき。
- 海外展開について。中小企業で海外に打って出るのはリスクが高いため「打って出る」というより「打って出す」。国によって法・制度が違い打って出るのは難しいと感じる。「打って出す」チャンスを広げるための支援をしてほしい。
- 地場産業の近江ちぢみで地域ブランドに認定され、広がるように携わっている。補助を受け、産地ショッップの展開をしている。最終商品を、地域ブランドでありながら、地域の人々がなかなか知らない。小さいときから地場産業を知ってもらう機会を作っている。
- 売れるためには、使う人・買う人の意識を変える必要がある。作り手・産地への支援はあるが、受け手側、生活者の意識、行動を変えることが大事。
- 書類作成のフォローをしてくれる機関があるとありがたい。

- 県・市の支援を得て、ロンドンのインテリアの展示会に素材を展示したところ、大きな反響があった。中小企業には、同じような宝がたくさん眠っている。しかし、なかなかアピールする時間がない。
- 助成をもらっているが、書類の提出が大変。できるだけ簡略化してほしい。そうすれば、また挑戦する気になる。
- 中小企業は大学生に知られていない。大学生には大手志向がある。大学と中小企業の連携がもっとできればと思う。

<支援機関等>

- 起業の着眼点を学ぼうとする企業と一緒に勉強会をしている。会では経営者の体験談を聞くのとネットワークを作ることをしており、受講者は1800名を超える。産学官金で連携する活動をしている。
- 補助金関係のところでは、繋ぎ役として頑張っている。ものづくり補助金で120件、創業補助金で30件ほど申請した。国の施策を繋ぐ役を頑張っていきたい。
- 認定支援機関の横の連携ができていないと思う。支援機関同士で顔の見える仕組みを作ってもらえれば良いと思う。お互いの顔が見えていると、個々の支援案件で非常にスムーズに話が進む。
- 補助金は事後交付であるが、事前や中間交付を検討してほしい。
- 特別償却や税額控除は、中小企業の7割は赤字なので恩恵を受けることができない。赤字を繰り越す制度はあるが、イギリスやドイツでは期間が長い。開業率とも関係しているのではないかな。



以上